

# PHJ NEWSLETTER

ピープルズ・ホープ・ジャパン  
ニュースレター



巻頭・海外事業

## 「誰も取り残さない」社会、 どうやって実現しますか？

### CONTENTS

#### 国内事業

南相馬心療カウンセリング支援  
事業終了の報告

#### 支援企業訪問

測り、つないで、  
サステナブルな世の中へ。  
横河電機株式会社



カンボジアの事業地内の民家にて

### PHJお知らせ掲示板

#### キャンペーン終了報告

### PHJ 書き損じハガキキャンペーン 2021-2022 に ご協力いただきありがとうございました。

「PHJ 書き損じハガキキャンペーン2021-2022」は2022年3月をもって  
終了しました。キャンペーン中は全国からハガキや切手がPHJ東京事務  
所に送られてきました。

今回集まったのは・・・

- 書き損じ及び未使用はがき：1,911枚
- 各種金券及びカード：158枚
- 切手：1,680枚

となります。多くの皆様にご協力いただき大変感謝しております。現在、  
買取業者により査定・換金中のため、金額が確定しましたら報告いたしま  
す。キャンペーンは終了しましたが、はがきや切手の寄付は通年で受け付  
けていますので、お手元にありましたら、下記住所までお送りください。  
〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32  
ピープルズ・ホープ・ジャパン宛



#### イベント終了報告

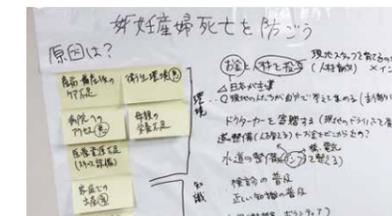
### NPO職員を疑似体験!

### 「そうだったんだ、途上国の保健医療」～東南アジア編～



アイスブレイク

国際協力分野に関心のある学生の方へより実践的な学びの場を提  
供するため、3月25日(金)にワークショップイベントを開催しました。  
本イベントはPHJの学生インターンが企画から携わり実施したもの。  
当日は会場でカンボジアの保健センター(農村の診療所)とオンラ  
インでつなぎ、保健センター内を見学したり、医療者にその場で参  
加者から直接質問するなど双方向のコミュニケーションも行ないま  
した。その後、発展途上国の抱える課題について考えるワークショッ  
プを実施しました。参加された学生の皆さんは積極的に意見を出し  
合い、課題に取り組みました。イベント終了後も参加者同士が交流  
するなど、学びと出会いの機会になったようです。参加いただいた  
皆様ありがとうございました。



グループワークの取り組み内容



グループワークの様子

### 編集後記

「誰も取り残さない」が巻頭のテーマとなりましたが、PHJを支援してくださっている横河電機株式会社の取り組みも、「誰も取り残さない」ために多様な視点を持つことを意識しているというお話しを伺うことができました。SDGsという世界共通のゴールがあることで、異なる業種や分野がつながり合うきっかけになるのだと感じました。

発行：特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパン

発行責任者：神谷洋平 編集人：南部道子 発行日：2022年6月14日

連絡先：〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32 TEL:0422-52-5507 FAX:0422-52-7035

ホームページ：<https://www.ph-japan.org/>

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。

# 1 PHJの取り残さない取り組み

## 物理的アクセス改善



### 保健施設の建築を支援 (カンボジア、ミャンマー)

地域住民の身近な場所に保健施設が少ない、施設はあるが老朽化していて、利用できないという場合は、施設の建築や改装を支援します。完成後は保健教育などで地域住民に施設の利用促進を図ります。



### ボランティアの育成 (カンボジア、ミャンマー)

医療人材が十分ではないなかで、妊婦や産後の女性が必要とするケアを提供・利用するため、保健教育を行ったり、医療人材と住民をつなぐボランティアを育成しています。カンボジアでは母子のケアに特化した母子保健ボランティアを育成。ミャンマーでは母子保健推進員を育成強化し、妊産婦一人ひとりに寄り添いきめ細かくサポートする仕組みを構築します。



### 不足している資機材の整備 (カンボジア、ミャンマー)

保健施設があっても、設備が整っていないために、利用できないことがあります。例えば、カンボジアの保健センターには産後ケア室がありましたが、設備が整っていないため、産後の母子は休む間もなく帰宅していました。そこで、産後ケア室に必要な設備を供与し、利用できるように整備しました。



### 中古救急車の寄贈 (ミャンマー)

保健施設までの交通機関が整っていない地域で、救急搬送の手段として日本の中古救急車を供与。複数の保健施設で共有され、患者の症状に応じてより適切な保健施設への搬送に活用されています。



# 「誰も取り残さない」社会 どうやって実現しますか？

**持** 続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) は、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰も取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsの前身である2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs: Millennium Development Goals) では、特に途上国の人々が直面している課題に対して、具体的な目標値を掲げ15年間取り組んだ結果、多くの命が守られ、人々の生活環境が改善されました。一方で、MDGsの達成状況を国・地域・性別・年齢・経済状況などから見ると、様々な格差が浮き彫りとなり、「取り残された人々」の存在が明らかとなりました。そこでSDGsは2030年までの開発の指針として、格差をなくす(=「誰も取り残さない」)ことを重要な柱として取り組むこととなったのです。

PHJが取り組んでいる保健分野に該当するSDGsのゴール3「健康と福祉」。この中で「すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられる」ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC: Universal Health Coverage) の達成——まさに誰も取り残さないことが求められています。

PHJの事業地では、お金がない、診療所がない、あっても遠い、医師や看護師が少ないといった理由で、基礎的な保健サービスを受けられない人がいます。UHCを達成するため、物理的アクセス、経済的アクセス、社会的・慣習的アクセスの3つのアクセスの改善に加え、提供されるサービスの質を高めることを目指して、取り組んでいます。



### UHC達成のポイント

## 3つのアクセスの改善 サービスの質の向上



必要な時に負担可能な費用で基礎的な保健医療サービスを受けることができる



参考：独立行政法人国際協力機構 JICA <https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/UHC.html>

# 3

PHJの取り残さない取り組み

## 経済的アクセス改善



### 貧困世帯支援の制度利用を促進 (カンボジア)

カンボジアの当局から貧困世帯と認められた世帯は公的保健施設での医療やそのほか公的機関からの支援を受けることができます。保健ボランティアは保健教育などの機会にこの制度を説明し、経済的に厳しい世帯であっても保健サービスを受けられるよう利用の促進を図っています。



### 緊急搬送システムの仕組みづくり (カンボジア)

保健機関から遠い村に住む人々は低価格で安心して使えるような移動手段が必要です。PHJでは、荷台を改造したトゥクトゥクを保健センターや村に寄贈しました。同時に地域住民の会費によって緊急搬送の運営を支え、必要な時にためらうことなく利用できる仕組みづくりを支援しました。



医療費を払うことが難しい

経済的アクセス

交通費が払えない



PHJの取り残さない取り組み

## サービスの質の向上



医療者の  
卒後研修が  
限られている

### 継続的な技術の向上促進 (カンボジア、ミャンマー)

医療者の資格取得後の卒後研修の機会が限られていたり、研修後のフォローアップが不十分、標準化された評価基準が整備されていないなどの課題があります。PHJでは研修を支援するだけでなく、その後も継続的にモニタリングを行い、技術の定着と向上を目指したサポートを行っています。



# 2

PHJの取り残さない取り組み

## 社会的慣習的アクセス改善



### 家族の理解の促進 (カンボジア、ミャンマー)

事業地では家庭における女性の行動が、男性や高齢者の意見や判断で左右されることがあります。例えば、妊婦健診の大切さを女性に伝えても夫や両親の理解が得られなければ、健診に行くことができないこともあります。ミャンマーでは保健教育に夫婦での参加を促しています。カンボジアでは、家庭訪問による保健教育を行ない、個々の家庭状況をふまえて家族全員の理解を促すように配慮しています。



©Toshihiro Kubo

### 保健教育の実施 (カンボジア、ミャンマー)

妊産婦健診や予防接種など、母子の健康状態の維持や改善に大切な保健サービスの認識が不十分であることが、アクセスの大きな壁になっています。PHJは地域住民を対象とした保健教育の実施を取り組みの要とし、適切な保健サービスの利用促進しています。



家族の理解が得られない

社会的慣習的アクセス

保健サービスの認識が不十分

文字が読めない

### 伝統的産婆も取り残さない (カンボジア)

PHJの事業地では適切な医療知識が不十分な伝統的産婆の介助\*による出産が見受けられますが、助産師の介助による出産を勧めています。しかし、PHJの活動において伝統的産婆を排除はしません。コンポントム州の活動では、伝統的産婆との会議の場を設け、安全なお産への理解と協力を促します。コンポンチャム州では伝統的産婆がこれまでの経験や知識を活かし保健ボランティアとなって活躍するケースもあります。

\*カンボジアでは法律で禁止されています。



### イラストや映像の活用 (カンボジア、ミャンマー)

保健施設があっても、設備が整っていないために、利用できないことがあります。例えば、カンボジアの保健センターには産後ケア室がありましたが、設備が整っていないため、産後の母子は休む間もなく帰宅していました。そこで、産後ケア室に必要な設備を供与し、利用できるように整備しました。



©Toshihiro Kubo

災害支援 南相馬心療カウンセリング支援

■事業終了の報告

2021年12月をもちまして、PHJ様の支援を受けて実施してきた本事業も終了となりました。長きにわたる手厚い支援をいただきましたことに、心より御礼を申し上げます。「こころのケア」、そしてその中でも「トラウマへのケア」は本当に目に見えにくく、理解されることが少ないものです。そのような中でも、今回のように皆様から、暖かく力強い励ましとご支援をいただいたことに、本当に感謝しています。

本事業を開始した際には、東日本大震災・原発事故を経験した被災地である福島県南相馬市の診療所と、暖かく力強い励ましとご支援をいただいたことに、本当に感謝しています。本事業を開始した際には、東日本大震災・原発事故を経験した被災地である福島県南相馬市の診療所と、暖かく力強い励ましとご支援をいただいたことに、本当に感謝しています。



米倉 臨床心理士



榎原 臨床心理士



高橋 臨床心理士



ほりメンタルクリニック  
堀有伸 院長

■本事業に携わった専門家の方々

事業の実績

	前期 (2019.1~2020.6)	後期 (2020.7~2021.12)	合計
心理検査	86件	134件	220件
カウンセリング	424コマ	498コマ	922コマ
患者数	85人	31人	116人
支出	945万円	768万円	1,713万円

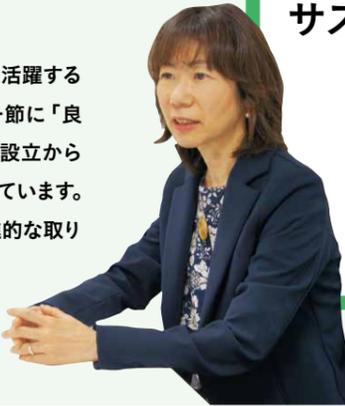
\*本事業は株式会社アシストと篤志家の方々のご支援により実施しました。

支援企業訪問

測り、つないで、  
サステナブルな世の中へ。

横河電機株式会社

YOKOGAWA



サステナビリティ推進部部长  
古川千佳 様

計測や制御という分野でグローバルに活躍する横河電機株式会社。企業理念の一節に「良き市民」であることを掲げており、PHJは設立から現在に至るまで多様な形で支援をいただいています。近年はSDGsを経営戦略に取り入れた先進的な取り組みが注目されています。

インドの学校20校の理科実験週間の取り組みを支援 (SDGs目標4)

SDGsを軸に貢献する分野や指標を具体化

初めてSDGsのゴールを目にしたとき、当社はまさにこれらに貢献できるという印象を持ちました。これまで取り組んできた事業は、SDGs活動そのものだと感じました。ただ、それまでは「お客様への貢献」の視点で事業をしていたので、世の中にどう貢献するかということを日々の業務や活動指標と明確に結び付けていませんでした。SDGsをきっかけに環境・社会・経済の3側面に焦点を当てたサステナビリティ目標「Three goals」を定め、事業でどう貢献するかの具体的な目標を設定しました。2021年から始まった中期経営計画ではThree goalsに向けた6つの重点課題を定めて、事業による貢献の拡大を目指しています。



Three goals

YOKOGAWAは、未来世代のより豊かな人間社会のために、2050年に向けて、Net-zero emissions, Well-being, Circular economyの実現を目指します。

サステナビリティ目標 Three goals

広い視野、長い目線で誰も取り残さないビジネスを

当社は「社会や企業の効率化」で大きな力を発揮でき、色々な業種や分野に貢献しています。お客様工場の一つの製造工程だけでなく、複数の工程、さらには各工場をまたがる、より広いスコープでの最適化を支援できます。また、現在も猛威を振るうCOVID-19のワクチンや治療薬の開発・研究のための機器を提供し、開発期間の短縮や遺伝子レベルの研究に貢献しています。SDGsのゴール達成を目指すには、多様な視点が必要です。取り組みによっては、エネルギーが削減されるけれど、一方で貧困層の負担が増えるということもあり得ます。目の前の課題だけでなく、SDGsの理念にある「誰も取り残さない」ことを意識し、世界の人々にどう影響があるのかを考え、長期的な視点で取り組むことが重要です。

現地の視点を持ち合わせた活動に共感

PHJの活動の特徴は、妊娠や出産という命に関わる「母子保健」に携わっているところ。押し付けではなく現地の視点を持ち合わせた取り組みに共感しています。またSDGsゴール3のUHCという「誰も取り残さない」に通ずる普遍的な分野に取り組まれていることを、支援している我々も誇りに感じています。当社においても思い込みでなく真に世の中に役立つ事業を進めていくために、現地を深く理解しているNGOと交流していくことがますます重要になってきていると感じています。

インタビューを終えて

SDGsのゴール達成に向けて具体的に事業で応えていだけでなく、その先の真の意味で人のためになるかを考え続けていることがわかりました。PHJの活動にも深いところで理解いただきご支援いただいていることに改めて感謝いたします。